

事業所名 児童発達支援事業所 おひさまSun

支援プログラム

作成日 R8年 3月 25日

| | | | | | | | |
|-----------|--|---|----|-----|---------|---|----|
| 法人（事業所）理念 | | 1.乳幼児期の育ちを一体的に考え、子どもたちが自律し、責任感と思いやりがあり、生涯学び続ける人間育成を目指す(こども園と連携し、生活・遊び・学びを連続性のある形で支えます。) 2.自然な集団の中で育ちを保障する。(個別支援計画と集団参加のバランスを取り、社会性の発達を促します。) 3.家庭・園・事業所の三者で「子育て」(発達状況を日常の具体的な場面で共有し、家庭でも活かせる支援へつなげます。) | | | | | |
| 支援方針 | | 1.子どもの「今」と「これから」を一体的に支える。(こども園と日常的に連携し、子どもの生活・遊び・学びを切れ目なくつなぐことで、安心した環境の中で発達の土台を育てます。) 2.個々の特性を理解し、その子に合った支援を行う。(発達特性・興味・得意不得意を丁寧に把握し、「その子にちょうど良い」刺激量・活動量・関わり方で支援を提供します。) 3.自然な集団の中で経験を大切にすること(こども園の生活や園児との関わりを活用し、ルール・共同活動・やり取りなどの社会性スキルを自然な形で身につけられるよう支援します。) 4.視覚的支援や環境調整を積極的に行う。(見通しが立つ環境、分かりやすいルール、落ち着ける空間を整え、安心して活動できるようにします。絵カード・写真・スケジュールなどの視覚支援を継続的に活用します。) 5.家庭・園・事業所の三者協働で育ちを支える(登降園時の情報共有、園担任との連携、家庭への助言を密に行い、家庭でも活かせる支援につなげます。保護者の思いを尊重し、相談しやすい関係づくりを大切にします。) 6.専門性を生かしたチーム支援を行う(保育士・児童指導員・看護など各分野の視点を統合し、一人ひとりに合ったアプローチを選択します。定期的なアセスメントと振り返りに基づいて支援を更新します。) 7.子どもが安心して自己を発揮できる場をつくる(否定ではなく肯定的関りを重視し、「選べる」「見通せる」「頼れる」環境づくりを心掛け自己肯定感を育みます。子どもの気持ちの安定と、心地よく過ごせる環境を最優先にします。) 8.就学に向けた力を育てる。(こども園と連携し、生活リズム・対人関係・指示理解・机上の集中など、就学に繋がる力を段階的に伸ばします。必要に応じて小学校の連携や引継ぎを行い、スムーズな移行を支援します。) | | | | | |
| 営業時間 | | 9時 | 0分 | 18時 | 0分まで | 送迎実施の有無 | あり |
| 支援内容 | | | | | | | |
| 本人支援 | 健康・生活 | <ul style="list-style-type: none"> ・食事・排泄・更衣・片付けなどの動作を段階的に分け、子どもが見通しを持って取り組めるよう支援します。 ・手順カードや実物写真を使い、活動の開始から終了までの流れを分かりやすく伝えます。 ・園での生活と事業所内のやり方が一致するよう、在籍園と共有し、家庭でも実践しやすい方法を助言します。 | | | | | |
| | 運動・感覚 | <ul style="list-style-type: none"> ・感覚の過敏や探求刺激の傾向に合わせて、ブランコ・サーキット・センサーマット・粘土などを活用した感覚調整を行います。 ・身体の安定や姿勢保持が難しい子には、椅子・足台・机の高さなどの環境調整を行います。 ・活動の前後に、深呼吸・圧刺激・リズム運動などの活動を取り入れます。 | | | | | |
| | 認知・行動 | <ul style="list-style-type: none"> ・パズル・マッチング・分類・構成・簡単な机上課題など、成功しやすい課題から取り組み、注意集中の土台をつくります。 ・指示は「一つの指示で一つの行動」を基本とし、理解しやすい環境を整えます。 ・園生活につながるスキル(片付け・名前認識・簡単な準備動作)を、実生活の中で自然にできるように支援します。 | | | | | |
| | 言語コミュニケーション | <ul style="list-style-type: none"> ・ジェスチャー・指差し・簡単な言語など、その子に合った表現手段を確保し、要求・拒否・選択ができるように支援します。 ・職員が適切な声掛けや言葉のモデルを示し、日常の中で自然なやり取りを経験できる場を提供します。 ・困った気持ちや嬉しい気持ちなど、自分の気持ちを言葉で表現しやすいよう、感情のラベリングを行い自発的な気持ちの表出を促します。 ・乳幼児期より、コミュニケーションの基礎となる「三項関係」の構築を図るために、ふれあい遊び、やり取り遊びなどを取り入れながら他者意識を育て、他者との共有・共感性を育みます。 | | | | | |
| | 人間関係社会性 | <ul style="list-style-type: none"> ・順番・交代・共同作業など、小集団活動で練習できる場を設定し、都度のフィードバックを通して成功体験を積み上げ自己肯定感を育みます。 ・在籍園での関わり場面を共有し、事業所と園で同じ方法・同じルールを用いて一貫性を持って支援します。 ・「子ども時代は気持ちの理解と代替行動の提示、成功体験を積み上げるよう職員が適切に介入します。」 | | | | | |
| 家族支援 | <ul style="list-style-type: none"> ・登園時・降園時の申し送り、連絡帳、面談等を通して、家庭・園との情報共有を密に行います。 ・半年ごとに子どもの成長を振り返り、必要に応じて支援計画や支援方法を見直します。 | | | | 移行支援 | 所属している園・就園先と情報交換しながら成長を促していきます。また、在籍園と連携し、療育の様子や情報提供と園の保育に適応しやすい環境設定や理解しやすい提示方法などを伝達し、大集団の中でも学びやすい環境を支援します。 | |
| 地域支援 | <ul style="list-style-type: none"> ・困りごとが園で生じた場合は、その背景を分析し、家庭と園を含めた具体的な対応方法を提案します。 | | | | 職員の質の向上 | 週一回研修日を設け療育に必要な知識を深めます。 | |
| 主な行事等 | | 5月観劇会 7月七夕会 9月秋祭り 10月こども園との交流会 12月クリスマス会 3月ひなまつり ※避難訓練は毎月実施 | | | | | |